



慶應義塾大学ビジネス・スクール

UniEdit の開発と事業化 —客員助教授のネットワーク・ビジネス—

5

1999年2月、自らが開発しインターネット上に公開したオンライン・ソフトウェア（シェアウェア）「UniEdit」の事業化について田中達朗氏は思案を重ねていた。シェアウェアとしての公開の継続およびパッケージ・ソフトウェアとしての販売を含めた選択肢が田中氏の視野に入っていた。基本方針は早急に定める必要があった。また、事業の長期的な進め方についても考えを整理する必要があった。

10

オンライン・ソフトウェアとは、インターネットやパソコン通信を通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開されるソフトウェアの一種で、興味のある人は誰でもこれを自由にダウンロード（ホスト・コンピュータに接続してファイル受信）して使うことができた。ユーザーに使用料の支払い求めるオンライン・ソフトウェアはシェアウェアと呼ばれ、無料で提供されるものはフリーウェアと呼ばれた。開発者の多くは、金銭目当てオンライン・ソフトウェアを開発するというよりも、オンラインでつながる人々とのコラボレーションを楽しむ人々であった。

15

シェアウェアの使用料は、数百円から数千円の水準に指定されることが多かった。ソフトウェアの見返りに食料の送付を要求する開発者もいた。田中氏は UniEdit を 1 ライセンス 3,000 円で提供した。1999 年 1 月末の段階で、正式認証者（実際に送金してきたユーザー）は、延べ 1,148 人であった。

20

インターネットの急速な普及に伴い、シェアウェアもフリーウェアも世界各地で制作されつつあった。その数は年々加速度的に増え、どのソフトウェアも、オンライン・ソフトウェアとして入手するのが当たり前という時代が間もなく到来すると田中氏は予想していた。

25

オンライン・ソフトウェアの誕生²

オンライン・ソフトウェアの誕生は、1981年に遡る。当時、ワシントン州シアトル近郊に住んでいた IBM の社員、ジム・ケノップ (Jim Knopf) は、教会イベントの案内状を発

¹ このケースは、慶應義塾大学大型研究プロジェクトの一部として、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授古川公成とケース開発助手の飯盛義徳（佐賀市・飯盛教材株式会社常務取締役）が作成した。このケースに登場する人物、組織名およびソフトウェアの名称に一部仮名が採用されている。ケースは、経営管理に関する討議の資料として作成したもので、特定人物による事業経営の適否を例示する資料ではない。このケースの著作権は慶應義塾大学ビジネス・スクールに帰属する。（1999 年 3 月）

30